

現行計画(新京都府環境基本計画)の全体構成

第1章 計画の策定にあたって

- 1 計画策定の背景
- 2 京都の使命と役割
- 3 計画の目的等
 - (1) 計画の目的
京都府が目指す環境像・社会像を明らかにするとともに、その実現のために推進すべき施策の方向を示すために策定。
 - (2) 計画の性格
京都府環境を守り育てる条例に基づき、環境の保全及び創造に関する総合的かつ長期的な施策の大綱を定めるものであり、個別の条例、計画、具体的施策・事業などの指針となるもの。
 - (3) 計画期間
近未来のおおむね2020年度を目途として取り組んでいく施策の目標と施策展開の方向を明示。

第2章 京都府が目指す環境像・社会像(21世紀半ば(2050年頃))

- 1 京都府の環境問題及び対策の状況
 - (1) 地球温暖化対策条例に基づく対策の推進
 - (2) 人と自然の新たな関係構築を目指す自然環境保全対策
 - (3) 廃棄物の発生抑制を目指す循環型社会づくり
 - (4) 府民生活を支える環境管理
- 2 環境問題をめぐる世界・国の動き
 - (1) 地球温暖化対策をめぐる動き
 - (2) 生物多様性の保全をめぐる動き
 - (3) 循環型社会づくりをめぐる動き

第5章 計画の推進に向けて

- ① 府民、NPO、企業、大学等との協働
- ② 人材の育成
- ③ 様々な分野の政策の連携と統合
- ④ 計画の推進と実効性の確保

第3章 環境施策の基本方針

持続可能な社会の実現をめざして、京都の知恵と文化を活かし、自然と共生する美しい都市(まち)と美しい地域(むら)を創る

■温室効果ガスの排出量が80%削減された「低炭素社会」の実現

■低炭素社会に適応した新しいライフスタイルとまちづくりの進展

■京都の技術や文化、人材を活かした低炭素型産業の発展

■自然や文化と調和し共生する地域社会の実現

■安心・安全で環境への負荷が少ない循環型社会の実現

第4章 施策の目標及び展開方向

1 持続可能な社会の礎となる地球温暖化対策の推進

- (目標)
- ① 京都府内の温室効果ガス排出量を、平成42年度(2030年度)までに、平成2年度(1990年度)と比べて40%削減
 - ② 中間年である平成32年度(2020年度)までに25%の削減
 - ③ 京都府内各地域の特性を活かして、化石燃料に依存することなく快適な府民生活や活発な産業活動が可能となる社会・経済
- 家庭における省エネルギー・創エネルギー対策推進
 - 事業活動における対策の推進
 - 運輸交通に関する対策の推進
 - 森林による二酸化炭素吸収源対策の推進
 - 再生可能エネルギーの導入促進
 - 低炭素社会に適応した環境産業の振興
 - 環境配慮商品等の購入促進
 - 環境学習の推進
 - 地域の特性を活かした持続可能な社会・経済モデルの構築
 - 地球温暖化への適応策の推進
 - 京都議定書誕生の地から世界への情報発信

2 自然に親しみ自然とともに生きる地域づくりの推進

- (目標)
- ① 府民が自然に親しむ場や機会の充実、地域固有の文化や景観、暮らしの知恵などの継承・発展
 - ② 絶滅のおそれのある野生動植物の保全回復、侵略的外来生物の防除、増えすぎた野生鳥獣の個体数管理
- 自然とのふれあいの機会の充実
 - 生命を育む自然の保全と創出
 - 生物多様性の保全

3 限りある資源を大切にす循環型社会づくりの推進

- (目標)
- ① 府民生活や産業活動の中に、廃棄物の発生抑制・再利用・再生利用(3R)の考え方や仕組みを浸透させ、廃棄物の発生量や最終処分量を抑制
 - ② 廃棄物の不法投棄を撲滅
- 廃棄物の発生量・最終処分量の削減
 - 廃棄物の適正処分
 - 不法投棄等の撲滅

4 府民生活の安心安全を守る環境管理の推進

- (目標)
- ① 京都府域の大気、水質、土壌などの総合的な環境管理を強化し、全ての環境基準を達成
 - ② 戦略的環境アセスメント導入、環境リスク事案の発生の未然防止等により、環境負荷を低減
- 大気・水環境の保全
 - 生活環境の保全

5 主な地域別の施策の展開方向

- | | | |
|---|--|---|
| <p><丹後地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 里海・里山・里地など、丹後の自然を守り活かす地域づくり ■ 環境を軸にした農林水産業や観光など地域産業の再構築 ■ 再生可能エネルギーやバイオマスの活用による新産業の創出 | <p><南丹地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 丹波高原の豊かな森林資源の保全と活用 ■ 地域資源循環型農業の先進地づくり ■ 地域の自然と文化と生態系を守る協働活動の展開 | <p><京都市圏></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 低炭素社会に適応した都市政策の推進 ■ 自然と共生する新しいライフスタイルの提案 ■ 大学・企業等の力を結集した先端技術の開発促進 |
| <p><中丹地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 由良川や舞鶴湾の豊かな自然環境と調和した地域づくり ■ 農山村の生活文化を守り伝えるエコ・ツーリズムの展開 ■ 工業団地を中心とする資源循環型システムの確立 | <p><山城地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 歴史文化を伝承する自然環境の保全と継承 ■ けいほんなエコシティの推進 | |